

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

2016年を迎えるに当たって



後援会会長 小林章 (優生/生命科学部)

2015年は後援会活動に多大なるご理解、ご協力をいただきまして、心より感謝、御礼を申し上げます。
法政大学後援会は、来年には創立69年を迎えます。活動目的である、「大学の教育方針に則り、大学と学生、家庭との連絡を緊密にして教育事業を援助し、あわせて会員相互の親睦を図る」ために、これからも学生と大学の支援や後援会会員向けの企画と情報発信を、全国36支部と連携して行っていく予定です。

法政大学は、2014年に就任された田中総長の下、2030年の創立150周年に向けて大いなる変革を進めています。「世界のどこでも生き抜く力」をメインテーマに、新たな時代の変化に即応できる、魅力ある大学の構築を目指し、国際化および全学生在学中にグローバル体験できる環境づくりに取り組んでいます。私たち後援会も、卒業生組織である「法政大学校友会」との連携、協力関係を一層強化し、次代に向けた大学の改革を全力で支援していきます。

年明けには、2年ぶりに箱根駅伝の本戦出場を果たした陸上競技部の選手が、オレンジの襟(たすき)をかけて箱根路を快走します。そして、2016年8月には市ヶ谷キャンパスの新しい顔となる「富士見ゲート」が竣工します。変わっていく大学と歩調を共にして、後援会も時代と環境に合った活動を進めていきます。引き続き後援会活動へのご理解、ご協力を賜りますよう、衷心よりお願いいたします。
最後になりますが、後援会会員ならびにご家族の皆さまにとりまして、2016年が明るく実り多き年でありますことを祈念申し上げます。



後援会総務 祖父江一仁 (翼/デザイン工学部)

支部長懇談会および支部長会議報告

11月6日(金)、7日(土)の2日間にわたり、「支部長懇談会および支部長会議」が開催されました。全国36支部の支部長と副支部長、運営委員、総勢約90人が市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワー26階スカイホールに集まり意見を交換しました。

1日目は夕刻より開始。小林章後援会会長のあいさつ、支部出席者の紹介後、6支部から活動報告として、今年度支部周年事業、会員出席率向上の取り組み、校友会共催企画、支部イベント計画などが発表されました。

2日目は午前、大学から田中優子総長、廣瀬克哉常務理事が出席。廣瀬常務理事は「世界のどこでも生き抜く力」というテーマで、国際機関との連携による組織化、課題解決型人材育成、社会に期待される大学を目指す取り組みについて講演されました。続く

支部長会議では、鶴巻義久後援会副会長より2015年度の支部総会・父母懇談会の活動に関する総括があり、支部活動における好事例や顕在化した課題などを出席者に展開しました。
午後は五つのグループに分かれ、①校友会との連携強化、②支部総会・父母懇談会の内容・運営の見直し、③支部活動におけるIT(情報技術)の活用について意見交換が行われました。各グループの結果発表により、各支部における実情と課題が数多く出され、出席者全員で課題を共有できました。今後の支部活動につながる大変有意義な会になりました。



写真で振り返る後援会



- 1 5月16日(土) 幹事会/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー「スカイホール」
- 2 5月23日(土) 新幹事予定者説明会/市ヶ谷キャンパス 九段校舎
- 3 6月6日(土) 支部長会議/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー「スカイホール」
- 4 6月6日(土) 総会/市ヶ谷キャンパス外濠校舎「薩埵ホール」
- 5 6月27日(土) 役員研修会/市ヶ谷キャンパス 外濠校舎
- 6 7月4日(土) 役員キャンパス見学会/多摩キャンパス スポーツ健康学部棟
- 7 10月1日(木) 常任参与・参与と運営委員懇談会/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー
- 8 10月11日(日) 首都圏父母懇談会/市ヶ谷キャンパス
- 9 10月17日(土) 首都圏父母懇談会/多摩キャンパス
- 10 10月18日(日) 首都圏父母懇談会/小金井キャンパス



生からジュニアチームに入部しました。そ

賢史がバレーボールを始めたのは、私と賢史の姉がバレーボールをしていた影響です。彼自身が決心し、小学6年

生からお任せしています。吉田康伸部長、濱口純一監督、山田快

コーチも法政大学の出身なので、安心してお任せしています。

賢史がバレーボールを始めたのは、私と賢史の姉がバレーボールをしていた影響です。彼自身が決心し、小学6年

生からお任せしています。吉田康伸部長、濱口純一監督、山田快

コーチも法政大学の出身なので、安心してお任せしています。

賢史がバレーボールを始めたのは、私と賢史の姉がバレーボールをしていた影響です。彼自身が決心し、小学6年

生からお任せしています。吉田康伸部長、濱口純一監督、山田快

私は久光製菓の実業団チームで3年間プレーをしていた経験を持っています。その間にチームは2部（現在の

春の高校バレーにも出場しました。実は、私も38年前の同大会に出場し、全国ベスト8に進出しました。そのことを知っていた賢史は、私の記録を超えるたいと言っていました。結果は私と同じベスト8でした。

県内大会は全て優勝し、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）、国民体育大会（国体）、九州大会に出場。

部の濱口監督と2012年ロンドン五輪のビーチバレーに出場した朝日健太郎さんも、鎮西高校から法政大学に進まれたOBです。

高校は、全日本バレーボール高等学校選手権大会（春の高校バレー）の出場実績も多い鎮西中学高等学校（鎮西高校）に進学し、名将である畑野久雄監督の指導を受けました。本学バレー部の濱口監督と2012年ロンドン五輪のビーチバレーに出場した朝日健太郎さんも、鎮西高校から法政大学に進まれたOBです。

これからはバレーボール「筋」で、中学校でとても熱意あふれる二人の先生に出会い、バレーボールの基礎的な技術を学び、中学3年のときには熊本県中学選抜のメンバーに選ばれました。

チャレンジリーグ）から1部（現在のプレミアリーグ）に昇格しました。その影響からか、賢史はバレーボールを始めた頃から「レベルの高いバレーボールを知りたい、高い技術を身に付けたい」という信念を持っていて、関東の大学へ進んで技術を磨こうと決めていたようです。

賢史が高校3年の11月に、夫を病気で亡くしました。亡くなる1週間ほど前に「賢史、大学は何としても卒業しろよ」と背中を押してくれました。夫のおかげで、無事に法政大学に進学することができたのです。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

来年は4年生になり、部の最上級生としての責任も出てきます。重責と感じる事例が発生したときでも慌てず、的確に判断し、対応できるかが大切に

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。

賢史は、試合での勝敗や技術に対する精度への執念が強いように思いますが、バレーボール選手として、それを極める目的で進学したのは事実です。しかし、これからは技術の向上だけでなく、バレーボールを通して社会に貢献できるような、人間形成をしてほしいと思います。



最後にりましたが、バレー部の吉田部長、濱口監督はじめ、山田コーチ、トレーナー、チームの皆さま、日頃からご指導誠にありがとうございました。成長している息子の姿を見るたびに、感謝の気持ちでいっぱいになります。また、大学関係者、後援会の皆さまにご支援いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

体育会応援30【バレーボール部】 親からのメッセージ



後援会熊本県支部長 緒方眞理（賢史／法学部）



先日のリーグ戦は、賢史の祖父と一緒に応援に行きました。久々の孫の雄姿に祖父も目を細め、活躍に喜びを隠しきれない様子でした。私も一緒になって、声をからして応援しました。

賢史、これからも、いつでもどこでも応援に行くからね。勝とうが負けようが応援するからね。誰が何と言っても応援し続けるからね。

最後にりましたが、バレー部の吉田部長、濱口監督はじめ、山田コーチ、トレーナー、チームの皆さま、日頃からご指導誠にありがとうございました。成長している息子の姿を見るたびに、感謝の気持ちでいっぱいになります。また、大学関係者、後援会の皆さまにご支援いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

副学長・学部長・後援会役員懇談会報告



後援会総務 古家一郎（聖之／キャリアデザイン学部）

11月7日（土）13時より、市ヶ谷キャンパス外濠校舎4階「S407教室」にて、「副学長・学部長・後援会役員懇談会」が開催されました。

当日は、大学から廣瀬克哉常務理事をはじめ、副学長、学部長、学生センター長、関係職員の皆さまが出席されました。後援会からは小林章会長以下多数の本部役員が皆さま、加えて全国から集まった36支部の支部長、支部役員が皆さまが参加されました。

冒頭の小林会長のあいさつに続いて、福田好朗副学長があいさつ。「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）」に指定され、世界のどこでも生き抜く力を学生に身に付けさせたい」という言葉が印象的でした。



副学長・学部長・後援会役員懇談会

こうした懇談会に出席した後援会役員が、大学の現状や将来構想を一堂に会して情報共有できたことが最大の収穫でした。



懇談会

総長・学内理事との懇談会報告



後援会総務 秋山太史（厳諒／理工学部）

11月25日（水）市ヶ谷キャンパス9段校舎5階の第二会議室にて、「総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会」を開催しました。

この会は、学生の保護者で構成する後援会が、大学や学生の現在の状況、今後の大学の在り方、取り組みなどについて、直接大学と意見交換する機会として、毎年開催しています。当日、大学側からは田中優子総長と常務理事・理事の皆さまなど計9人、後援会側は小林章会長をはじめ副会長、総務の運営委員10人と事務局長が出席しました。

懇談会では、後援会からあらかじめ提出した質問事項、例えば「法政大学の将来像をかたちづくる『法政2030』と称する新長期ビジョン造りのもとの四つの小委員会（財政基盤検討、キャンパス再構築、ダイバーシティ化、ブランディング戦略）の進捗」「法政大学の学風を生かした人（市民）づくり」「グローバル人材育成支援の在り方」「後援会行事への総長隣席機



会のますますの創出」「2017年度に70周年を迎える今後の後援会事業の在り方」などについて総長と担当理事から説明があり、忌憚（きたん）のない活発な意見交換が行われました。法政大学が、今後どのように大学改革を進めていくのかという方向性を知るとともに、大学のブランド力の強化と向上のために常に努力されている状況を、とても良く理解することができました。後援会としても、大学の取り組みや姿勢を理解および支援し、より良い学びの場の実現に向けて、一層協力していきたいと思えます。